

時間割コード	KB7751	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 哲司				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人間科学への招待

授業の概要/Course Overview

21世紀を生きる私たちに必要な社会心理学および人間科学について学びます。単なる一方的な講義ではなく、提起された問題について受講生同士の対話（グループディスカッション）の中で考えを深めていきます。多くの人が当たり前のことと見なしている「常識」、その常識を解体してみると何が見えてくるかということも重要です。自然科学と人間科学の違いも理解しつつ、自ら「問うて学ぶ」という学問する姿勢も身につけます。

キーワード/Keyword(s)

心理学 社会心理学 人間科学と自然科学 常識をずらしてみる 社会問題 批判精神 モノサシ(価値観) 学問をすること

到達目標/Learning Objectives

①社会心理学および人間科学の基本的なスタンスを対話のなかで理解できる。②疑ってみるべき「常識」を見極め、自分なりのモノの見方ができる。③自分なりのモノサシ（価値観）を持ち、「学問をすること」の営みについて理解し、大学で学問する意義を把握できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたオリエンテーション：「社会的動物」としての私たち
 第2回 社会心理学とは何か：「社会」心理学と「社会心理」学
 第3回 社会心理学の視座：自分の内なるステレオタイプに気づく
 第4回 「わかっているつもり」からの脱却：新聞を読む、社会を読み解く、情報を発信する
 第5回 社会のなかで隠されている問題を知る：ジェンダーの窓から見えること
 第6回 心を知るために外の世界に目を向ける：他者と出会い自分を知る
 第7回 私たち人間はどんな存在か：状況に埋め込まれて生きる私たち
 第8回 さらに人間と社会の探究へ：関わる知、フィールドワークの知／小論文課題

【授業外学修】

(1) 時事問題を扱うこともあり、講義の順番や内容は多少変更になる可能性があります。常日頃から時事問題にもアンテナを張っていることが必要です。

(2) 授業時に提示される観点について、各自に1人1枚配布される「コミュニケーションカード」に授業後に書いて毎回提出してもらいます。コミュニケーションカードは、内容を担当教員が確認した上で、それぞれの学生に授業開始時に返却します。

【アクティブ・ラーニング】

(1) ほぼ毎回小グループをつかってディスカッションを行います。グループのメンバーは毎回替わります。知らない人とそこで出会って意見を交わし対話することを重視します。

(2) 対話の中から生まれる気づきを大事にしてください。その気づきは上記のコミュニケーションカードに書くなどして反映させてください。

い。

履修上の注意/Notes

普段からアンテナをはって社会のさまざまな情報に接し、毎回行う小グループでのディスカッションに積極的に参加してください。「参加する授業」です。原則として遅刻は許容しません。なお出席していないのにコミュニケーションカードだけを出すといったことがあった場合は、厳正に対処します。オフィス・アワー：木曜日のお昼休み (tetsuji.ito.64@vc.ibaraki.ac.jp宛にアポイントメントをとってください。)

情報端末の活用

・情報端末を必須として使用することはありませんが、授業でのディスカッション時に活用できるようにしておくことを推奨します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人間科学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、それをもとした論を展開できる。
A：人間科学の基本的な知識と考え方を修得し、それをもとした論を展開できる。
B：人間科学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、それをもとした論を展開できる。
C：人間科学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、それをもとした論を展開できる。
D：人間科学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、それをもとした論を展開できない。

成績の評価方法/Grading

コミュニケーションカードで授業への参加の度合いを評価します（50%）。加えて最後に授業全体を振り返って学んだことを論じた小論文によって成績を評価します（50%）。小論文は、8回目の授業時間内に書いてもらいます。授業に実質的にどのくらい参加し学んだか、また全体を振り返って自ら学んだことをどう文章にしっかり書けるかが評価のポイントです。なお出席状況が悪い場合には単位認定の対象外となります。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	21世紀を生きる社会心理学：人間と社会の探究入門
著者名	伊藤哲司 著
出版社	北樹出版
出版年	2016
ISBN	9784779305115
教材費	1700

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス
著者名	好井 裕明 著
出版社	光文社
出版年	
ISBN	9784334033439
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB7752	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	田原 彰太郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

倫理学入門

授業の概要/Course Overview

「～は善い」、「～することは正しい」。こういった道徳判断を私たちは日常的に下しています。しかし「～が善く、～をすることが正しいのはなぜか」と道徳判断の根拠を問われ、この問いに説得力をもって答えることができる人は多くはないはずです。この講義では、義務を基礎とする義務論と幸福を基礎とする功利主義を中心に、規範倫理学と呼ばれる学問分野の知見を用いつつ、この問いに取り組みます。

キーワード/Keyword(s)

規範倫理学、道徳判断、正しさ、善さ、義務論、義務、カント倫理学、功利主義、幸福

到達目標/Learning Objectives

- ・規範倫理学の基礎知識を理解する。
- ・規範倫理学の基礎知識を自分で運用し、道徳判断についての自分の考えをまとめ、それを論理的で明確に表現できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第一回 シラバスを用いたイントロダクション、講義の主題の説明

第二回 功利主義の基礎的理解

第三回 功利主義の利点と難点

第四回 功利主義の展開

第五回 義務論の基礎的理解：功利主義との比較を通して

第六回 義務論とカント倫理学

第七回 義務論の利点と難点

第八回 講義全体のまとめ

【アクティブ・ラーニング】

各回の終わりの10分程度の時間を使い、コメント・ペーパーを書いてもらいます。そこに意見や疑問を書いてください。その意見や疑問には、次の回でお答えします。

【授業外学修】

配布プリントを再読し、講義内容をよく理解するとともに、批判的に検討してください。授業中に挙げられた参考文献などを読み、各回の授業ごとに道徳判断についての理解を深めてください。

履修上の注意/Notes

遅刻をするとその回の講義全体を理解するのが難しくなるので、遅刻はできるだけ避けてください。他の受講生の邪魔になるので、授業中の私語は厳禁です。オフィスパワー：水曜日の昼休み（メールにてアポイントを取ってください）。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- A : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- B : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- C : 規範倫理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- D : 規範倫理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明することができない。

成績の評価方法/Grading

期末レポート：100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	動物からの倫理学入門
著者名	伊勢田哲治著
出版社	名古屋大学出版会
出版年	
ISBN	4815805997
教材費	2800

参考書2

書名	倫理学の話
著者名	品川哲彦 著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2015
ISBN	4779509718
教材費	2400

参考書3

書名	ビッククエスチョンズ 倫理
著者名	ジュリアン・バジーニ 著
出版社	ディスカヴァー・トゥエンティワン

出版年	2015
ISBN	4799316559
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7753	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	横溝 環				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

多文化コミュニケーション

授業の概要/Course Overview

異文化コミュニケーションの土台となる心構えを培う授業である。アクティビティおよびディスカッションを通して、異文化との出会いを楽しみ、多様な考え方があることを学ぶ。そして、多面的視点から物事を捉える姿勢を身につける。

キーワード/Keyword(s)

異文化コミュニケーション、多文化共生、格差、多様性、多面的視点、価値観

到達目標/Learning Objectives

- (1)多様な人々との出会いを楽しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
- (2)異文化コミュニケーションにおいて生じる諸問題について理解し、問題解決に向けて努力できる。
- (3)他者の視点から物事を解釈することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回. シラバスを用いたガイダンス／話し合う姿勢を学ぼう／解釈の多様性を楽しもう
（ラウンドロビン）絵を見て話し合い、意見を共有する
- 第2回. 自分の価値観に気づこう（1）：ルール・感情・組織との関わり方ほか
（ケースメソッド）（ラウンドロビン）価値観について話し合い、意見を共有する
- 第3回. 自分の価値観に気づこう（2）：関与・時間・コントロールほか
（ケースメソッド）（ラウンドロビン）価値観について話し合い、意見を共有する
- 第4回. 多文化共生について考えよう（1）：格差
（ラウンドロビン）（親和図法）日本にはどのような格差があるか話し合い、意見を共有する
- 第5回. 多文化共生について考えよう（2）：移民
（ケースメソッド）（ロールプレイ）ある立場の人になりきって社会問題を捉え、解決策を考える
- 第6回. 多文化共生について考えよう（3）：幸福
（ラウンドロビン）（クリエイティブ・セッション）幸福とは何かについて話し合い、意見を共有する
- 第7回. 宇宙からみた〇〇：準備
（クリエイティブ・セッション）絵・写真・動画を用いて発表する
- 第8回. 宇宙からみた〇〇：発表
（クリエイティブ・セッション）絵・写真・動画を用いて発表する

【授業外学修】

- (1) 授業の予習または復習として、自分が興味をもった分野の参考書（授業時に適宜紹介に目を通してください）。

(2) 第1回の授業において、第7回・第8回のクリエイティブ・セッションの課題を提示します。授業外の時間を使って十分に準備してください。

(3) 机の前で本やノートを開くことだけが予習・復習ではないと私は考えています。異文化コミュニケーションの事例は日常生活に溢れています。まずは身近な異文化に気づいてください。そして「これって何だろう?」「どうして今、私はこんな気持ちになっているんだろう?」「どうして、あの人はそんなことをする(言う)んだろう?」といった感情を大切にしてください。さらに「これって授業で学んだあのことかも…」と、自らの経験を授業で学んだことと照らし合わせ捉えていくことを心がけてください。

出会いを学ぶ授業です。このクラスでの出会いを大切に、クラスを離れても相互に声をかけ合い語り合ってください。そして、クラスメート以外の人にもその輪を広げていってください。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 毎回の授業において、グループ・ディスカッションおよび発表を行います。

(2) 毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行います。

履修上の注意/Notes

参加型の授業です。(得意、不得意は別にして)自分の意見を発信したい、発信できるようになりたいという意欲のある学生の参加を望みます。オフィスアワーは水曜日の昼休みです。受講者の人数、授業の進み具合により内容を若干変更することがあります。その場合は改めて通知します。

情報端末の活用

授業内でPCを使用することがあります。その場合は事前に授業およびポータルシステムを通して伝えます。課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えについて最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えが修得できておらず、さらにその仕組みについて説明できていない。

成績の評価方法/Grading

出席が2/3未満の学生は評価対象から外します。期末試験は実施しません。

(1) 期末レポート50% : 授業を通して学んだこと、自らの認識・感情・行動における変化について

(2) 提出物30% : 振り返りシート (ミニツツペーパー) および課題

(3) 授業への貢献度20% : アクティビティおよび討議への積極的参加

教科書/Textbook(s)

備考	教科書 : ハンドアウトを配付します。 参考書 : 授業中に適宜紹介します。
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
----------	---

専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7754	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	新井 英靖				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

異文化としての子ども理解

授業の概要/Course Overview

子どもの文化を大人と異なる文化として捉え、それをどのように理解し、楽しくコミュニケーションするかという点を理解する。

キーワード/Keyword(s)

子ども理解 異文化 コミュニケーション

到達目標/Learning Objectives

子どもの特徴を知り、子どもを異文化な存在としてうけとめる基本的な考え方をもつことができる。
（ディプロマポリシー：③課題解決能力・コミュニケーション力を育てる）

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】異文化な存在として子どもを理解する,ディスカッション
【授業外学修】子どもと大人の違いについて考える

第2回：【授業内容】健康面から考える子ども理解,ディスカッション
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第3回：【授業内容】芸術面から子どもを理解する,ディスカッション
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第4回：【授業内容】言葉・数の発達から子どもを理解する,ディスカッション
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第5回：【授業内容】環境面から子どもを理解する,ディスカッション
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第6回：【授業内容】人間関係面から子どもを理解する,ディスカッション
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第7回：【授業内容】大人から見た子育ての課題
【授業外学修】授業で取り扱ったテキストの該当部分を読む

第8回：まとめ「子どもを異文化として見ることの意味」

履修上の注意/Notes

【履修上の注意】意欲を持って参加すること。
「遅刻の取り扱い」全学教育機構が示す基準にそって対応する。
「オフィスアワー」月曜1限

情報端末の活用

情報端末活用の予定なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 異文化としての子どもを十分に理解し, その具体的な内容を例示しながら説明できている。
A : 異文化としての子どもを理解し, その具体的な内容を説明できている。
B : 異文化としての子どもを理解し, 一般的な言葉で説明できている。
C : 異文化としての子どもを理解できているが, うまく説明できていない。
D : 異文化としての子どもをあまり理解できていない。

成績の評価方法/Grading

終講時に課すレポートにより評価する

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	楽しく遊んで、子どもを伸ばす：子育て・保育の悩みに教育研究者が答えるQ&A
著者名	茨城大学教育学部, 茨城大学教育学部附属幼稚園 編
出版社	福村出版
出版年	2016
ISBN	9784571110399
教材費	1500

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	なし
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

学校教員

実践的教育から構成される授業科目

社会人としての姿勢や課題解決能力

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	なし	受講条件等	なし
--------	----	-------	----

時間割コード	KB7755	ナンバリング	KB-CRC-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	館 深雪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Cross-cultural Understanding: Japan and America

授業の概要/Course Overview

This course is designed to develop students' understanding of cultural differences between Japan and the U.S. while training critical thinking and communication skills through discussions. Students from different backgrounds are to collaboratively engage in critical analysis of cultural practices by reading assigned materials, exchanging opinions, and identifying key elements on each issue.

キーワード/Keyword(s)

cross-cultural understanding, Japan & the U.S., cultural contrast, cultural identity, polite fiction, discussion, communication skills

到達目標/Learning Objectives

This course aims to develop students' ability to (1) identify differences in cultural practices & ideals between Japan and the U.S.; (2) subjectively and critically analyze Japanese and American cultural practices; (3) present thought-through opinions based on prior reading and deliberation on given topics; (4) conduct discussions with various people in English.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

[Course Schedule]

1. Course introduction - Contrasting Japanese & American cultures; [Unit 1]"You and I Are Equals"

Homework: Read Chapter 9, Answer chapter exercise & discussion questions

2. [Unit 9]"Conversational Ballgames"

Homework: Read Chapter 6, Answer chapter exercise & discussion questions

3. [Unit 6]"Being Original"

Homework: Read Chapter 2, Answer chapter exercise & discussion questions

4. [Unit 2]"You and I Are Close Friends"

Homework: Read Chapter 3, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Chapter summary

5. [Unit 3]"You and I Are Relaxed"

Homework: Read Chapter 4, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Conduct an interview

6. [Unit 4]"You and I Are Independent"

Homework: Read Chapter 10, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Summarize & analyze interview results

7. [Unit 10]"Don't Apologize!"

Homework: Prepare for project presentation and discussion

8. Final Project: Presentation & Discussion

[Active Learning]

The following active learning features are implemented throughout the course:

- Discussion: share ideas, opinions, experiences related to given topics
- Think-Pair-Share: think about questions and share answers in pairs
- Round Robin: take turns expressing opinions in groups
- Peer Instruction: figure out answers to questions/issues among students
- Interview: interview classmates on related issues
- Role Play: simulate problem situations
- Reflective Journal: reflect on lesson content and write thoughts and self-analysis

[Diploma Policy]

(1) Panoramic understanding of the world (3) Problem-solving ability and communication skills

[Notes]

(1) This course is a modified version of "Discussion in English" offered in the past. Therefore, students who have already received credits in "Discussion in English" will not be permitted to take this course.

(2) Since this class will be conducted in English, students should have a basic command of the English in order to understand instructions, to collaborate with others, and to express their own thoughts. However, this course also welcomes students with a strong motivation and commitment to learn and communicate their opinions clearly, as these factors will be advantageous in a successful completion of this course.

履修上の注意/Notes

The course will be conducted in English. Students should have basic English communication skills and commitment to make efforts to become confident communicators. Since this course meets only for 8 periods, attendance, homework, & active participation in every class will be critical. Two-thirds attendance is required. Three tardies will count as 1 absence. No written final exam in Class 8.

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: Understand 90~100 % of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values fully and clearly

A: Understand 80% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values

B: Understand 70 % of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values with the help of others

C: Understand at least 60% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values with the help of others

D: Understand less than 60% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and not able to explain their values

成績の評価方法/Grading

Students are expected to attend each class, complete homework, and actively participate in all the class activities. The final grade will be based upon weekly participation in class activities & discussions (30%), homework & assessments (50%), and a final project (20%).

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	Polite Fictions in Collision - Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other
著者名	Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto
出版社	Kinseido
出版年	2004
ISBN	9784764737785
教材費	1250

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	異文化コミュニケーション論：グローバル・マインドとローカル・アフェクト
著者名	八島智子, 久保田真弓 著
出版社	松柏社
出版年	2012
ISBN	9784775401842
教材費	2400

参考書2

書名	異文化コミュニケーションワークブック
著者名	八代京子 [ほか著]
出版社	三修社
出版年	2001
ISBN	9784384018516
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7756	ナンバリング	KB-CRC-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	アンドレエフ アントン				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

International Exchange

授業の概要/Course Overview

Through research and oral presentations about the home countries of affiliated foreign universities students learn about their culture, history, and society, as well as their higher education system and the courses and activities offered at each institution, while at the same time improving their abilities to communicate and perform various tasks in English.

キーワード/Keyword(s)

foreign cultures, communication, presentation skills, higher education, affiliated universities

到達目標/Learning Objectives

- 1) Learn about the culture, history, society and education system of each country, as well as the environment at affiliated institution it is home to
- 2) Acquire communication and oral presentation skills needed for a successful study abroad

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1st lecture : 【Classwork】 Lecturer's and students' self-introductions; introduction to the course; topics (home-countries and institutions: Country1, 2...) and students in charge

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Bulgaria's history, culture, society and education system as well as the environment at Sofia University as an affiliated institutions

2nd lecture : 【Classwork】 The lecturer gives a model presentation about Bulgaria; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 1*'s history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution (*To be decided based on students' study abroad plans)

3rd lecture : 【Classwork】 Student (or team) 1 gives a presentation about Country 1; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 2's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 2.

4th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 2 gives a presentation about Country 2; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 3's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 3.

5th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 3 gives a presentation about Country 3; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 4's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 4.

system as well as the environment at Affiliated Institution 4.

6th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 4 gives a presentation about Country 4; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 5's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 5.

7th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 5 gives a presentation about Country 5; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 6's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 6.

8th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 6 gives presentation about Country 6; Q&A; discussion; wrap-up session (No test)

履修上の注意/Notes

None

情報端末の活用

Students are advised to bring their Wi-Fi enabled devices with them.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Student's knowledge and English skills exceed the learning objectives

A : Student's knowledge and English skills perfectly meet the learning objectives

B : Student's knowledge and English skills almost meet the learning objectives

C : With a continuous effort student's knowledge and English are bound to meet the learning objectives

D : Student's knowledge and English skills are far from meeting the learning objectives

成績の評価方法/Grading

oral presentations(50%); class contribution(50%)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7757	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	澁谷 浩一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

シルクロードの文化と歴史

授業の概要/Course Overview

シルクロードが通っているユーラシア大陸の中央部（中央ユーラシア、内陸アジア）は、古代から多文化が共生する世界でした。この授業では、シルクロードの歴史からいくつかのトピックをとりあげ、多様な言語、宗教、文化が共存し、お互いに影響を与えながら発展してきた具体的な様相を学びます。そこには文化や宗教の違いによって紛争が生じてしまいがちな現代世界を見つめ直すヒントがたくさん存在します。

キーワード/Keyword(s)

シルクロード 中央ユーラシア 多文化 共生 異文化 世界史 遊牧民 匈奴 スキタイ トルコ ウイグル ソグド人 モンゴル帝国

到達目標/Learning Objectives

（1）シルクロードの歴史・文化における多文化共生の有様について理解している。（2）授業に関連する諸事項について、積極的・主体的に関連文献・事典等を参照して調べる習慣が身についている。（3）シルクロードの歴史・文化における多文化共生の有様について基礎的な考察を行い、その結果を論理的な文章によって表現することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 はじめに：シラバスを使用したガイダンス、歴史の中から「多文化共生」を考える
- 2 中央ユーラシア、シルクロードという多文化世界
- 3 スキタイとペルシア帝国～ギリシア人ヘロドトスがとらえた異文化世界
- 4 匈奴という遊牧国家～漢人司馬遷がとらえた異文化世界
- 5 異文化の衝突と融合～世界史を変えた遊牧民の大移動
- 6 「トルコ」という名の遊牧国家と通商の民ソグド人の共生
- 7 ウイグルとシルクロード：オアシス地帯での多民族通商国家の発展
- 8 モンゴル帝国における多文化共生

【授業外学修】

（1）第2回から第8回までの各回では、事前にポータルシステムの「授業資料」欄を通じて事前準備課題を指示する。授業を理解する上で必要な重要事項等について指示に従って課題に取り組み、その結果を毎回授業時に提出すること。

（2）指示された内容だけでなく、自らの知識の度合い、関心に応じて歴史辞典（大学受験用の用語集は除く）や百科事典等を使って主体的に関連事項について調べ、知識及び視野を広げることが望ましい。百科事典検索は「ジャパンナレッジ」の利用をおすすめする。

（3）事前に配信する授業資料（原則として授業の1週間前に配信）にも事前に必ず目を通しておくこと。

（4）授業で紹介された参考文献については、積極的に手にとって読んでみることを。

（5）最終レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、授業内で説明する執筆要項の指示に従って執筆すること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回までの各回冒頭では、前回授業で提出されたレスポンスシートの内容を振り返り、前回までの受講者の理解度・到達点を確認してから新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- (1)事前配信する授業資料の利用方法については各自の判断に任せる。ただし、授業時に提出する事前準備シート（A4サイズ1枚、PDF形式）については必ず印刷し、手書きで準備の上授業に持参すること。
- (2)遅刻欠席厳禁。授業冒頭で学生証を使った出席確認を行う。遅刻3回（学生証を忘れた場合は遅刻として扱う）で欠席1回分とみなす。
- (3)授業に関係した指示・お知らせ、資料配信、課題提出に教務情報ポータルシステムを利用する。
- (4)オフィスアワー：火曜日の昼休み

情報端末の活用

- ・ 授業資料を印刷しない場合はPC等を持参して使用すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

平常点50%（事前準備課題への対応、毎回提出する「レスポンスシート」の内容等、評価の観点には到達目標1と2）、期末レポート50%（評価の観点には到達目標1と3）で評価する。期末レポートの課題内容については授業時間内に詳しく説明するのでその指示に従うこと。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中央ユーラシア史
著者名	小松 久男 編
出版社	山川出版社
出版年	2000
ISBN	9784634413405
教材費	3500

参考書2

書名	角川世界史辞典
著者名	西川正雄 [ほか] 編
出版社	角川書店
出版年	

ISBN	9784040321004
教材費	3990

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7758	ナンバリング	KB-CRC-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	甲斐 教行				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ミケランジェロの作品と思想

授業の概要/Course Overview

ミケランジェロ・ブオナローティは絵画・彫刻・建築・詩の四領域において創造性を発揮した西洋美術史上の巨匠である。この授業は、ミケランジェロの作品体系を主としてネオ・プラトニズム思想に基づいて解説する試みを紹介する。授業でとりあげる解釈はひとつの例であって絶対的なものではない。自分ならどう解釈するか、といった点にも意識を向けながら作品の魅力を鑑賞する習慣を養っていく手ほどきとした。ミケランジェロの思想を理解するためには聖書や神話、文学作品などさまざまな典拠の引用や参照が必要とされるが、詳細は授業の中で適宜紹介していく。

キーワード/Keyword(s)

イタリア、ルネサンス、フィレンツェ、ローマ、メディチ家、図像解釈、キリスト教、プラトン、ネオ・プラトニズム、ミケランジェロ

到達目標/Learning Objectives

1. ミケランジェロをはじめとするルネサンスの芸術表現と思想の関連について一定の理解ができる。
2. 美術作品の鑑賞において自分なりの指針が得られる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス システィーナ天井画の構造とその影響
- 【授業外学習】 テクストの46ページ～65ページについて、授業後でもかまわないので目を通しておくこと。
- 【授業内容】 システィーナ天井画の思想
- 【授業外学習】 テクストの12ページ～44ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 ルカ・シニョレツリとミケランジェロ《審判図》
- 【授業外学習】 テクストの128ページ～145ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《審判図》上半分の解説
- 【授業外学習】 テクストの145ページ～156ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《審判図》下半分の解説
- 【授業外学習】 テクストの156ページ～168ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 ミケランジェロの初期作品
- 【授業外学習】 テクストの4ページ～10ページ、98ページ～104ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《メディチ家墓廟》の意味
- 【授業外学習】 テクストの104ページ～126ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《ロンダニーニのピエタ》の諸案とその意味
- 【授業外学習】 テクストの170ページ～181ページに目を通しておくこと。

履修上の注意/Notes

遅刻をするとその回の授業の理解が困難となるので、定時に出席すること。オフィスアワー：木4。メールアドレス
noriyuki.kai.nrykai@vc.ibaraki.ac.jp
教育実習、介護等体験は欠席扱いとしないので事前に申し出ること。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート課題により評価を行う。内容の理解に関して60%、授業体験による作品鑑賞の活性化に関して40%（評価の観点は到達目標の1と2）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ミケランジェロ研究
著者名	カルロ・デル・ブラーヴォ 著
出版社	中央公論美術出版
出版年	2018
ISBN	9784805508565
教材費	2700

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7759	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	今泉 友里				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学校教育を振り返る

授業の概要/Course Overview

学校が社会の中で抱えてしまう問題について、哲学者、社会学者、実践者の書籍などをもとに議論し、自分自身の学校教育の経験を振り返るとともに、これからの学校教育の在り方について考えていきましょう。

キーワード/Keyword(s)

ピエール・ブルデュール、ミシェル・フーコー、パウロ・フレイレ、イヴァン・イリイチ、オルタナティブ

到達目標/Learning Objectives

- ア. 学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的な観点から、体系立てて説明できる。
- イ. これからの学校の在り方について、これまでの知見をもとに考察できる。
- ウ. アとイの目標を達成するために、グループでの議論に積極的に参加できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：シラバスを用いたガイダンス、アクティブ・ラーニングとは何か
2. 学校という装置：学校と社会
3. 学校という装置：格差の再生産
4. フレイレ：『被抑圧者の教育学』を読む
5. イリイチ1：「学校化のむなしさ」『オルタナティブ制度変革の提唱』を読む（前半）
6. イリイチ2：「学校化のむなしさ」『オルタナティブ制度変革の提唱』を読む（後半）
7. イリイチ3：日本の現状との関連
8. まとめ：レポートの読みあい（45分）

【授業外学修】

復習として、授業中に担当しなかった部分についての資料をダウンロードして読んだ上で、ミニレポートを作成してください。
授業内に紹介した書籍や関連する書籍などを積極的に読んでください。

予習内容：

関連するニュース等にアンテナをはっておきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

毎回、アクティブ・ラーニングのための手法（ジグソー法を中心としたグループワークと、ワークシートへの記述と宿題のミニレポートを中心とした思考を外化する個人ワーク）を取り入れます。

履修上の注意/Notes

授業ではグループワークを

多用します。積極的に参加してください。

授業中に担当しない資料があるため、復習は必須です。

一部の資料内容が、2018年度以降の教育学部の授業「教職概論」の内容と重複します。（ただし取りあげる文脈が異なり、また受講生の構成が異なるため、グループワークの中では新たな視点が得られると思います。）

情報端末の活用

講義中に教務情報ポータルにログインして小テストに回答してもらいますので、スマートフォンなどの機器を持参してください。

復習に必要な講義資料は教務情報ポータルから入手できます。

毎回のミニレポートは教務情報ポータルを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

各到達目標について次の基準にもとづいて評価をします。11ポイントでA+（90点以上）に相当し、10,9ポイントがA（80点以上90点未満）、8,7ポイントがB(70点以上80点未満)、6ポイントがC（60点以上70点未満）、5ポイント以下がD（60点未満）に相当します。

ア：

4.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的、またその他の観点を総合し、自らの経験と結び付けて体系立てて説明できる。

3.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的な観点から、体系立てて説明できる。

2.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、客観的に説明できる。

1.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、経験的な説明しかできない。または説明できない。

（ミニレポートと期末レポートにより評価）

イ：

4.これからの学校の在り方について、複数の知見をもとに考察し、具体的な行動につなげることができる。

3.これからの学校の在り方について、複数の知見をもとに考察できる。

2.これからの学校の在り方について、1つの知見をもとに考察できる。

1.これからの学校の在り方について、他者の知見に基づかない考察しかできない。または考察できない。

（ミニレポートと期末レポートにより評価）

ウ：

3.アとイの目標を達成するために、グループでの議論に積極的に参加できる。

2.アとイの目標を達成するために、グループワークやディスカッションに参加できる。

1.グループワークやディスカッションに参加できない。

（授業中の取り組みにより評価）

成績の評価方法/Grading

授業中の取り組み：32点（各4点×8回）／毎回のミニレポート：32点（各4点×8回）／期末レポート：36点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7760	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	小川 哲哉				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

討議活動によるアクティブラーニングの実践

授業の概要/Course Overview

これからの学習活動では、知識を教え込むような「知識伝達型」ではなく、知識や情報を使いこなしていく「知識活用型」の学習活動が重要になる。本授業では、討議活動を通してアクティブラーニング的な学びを考えていきたい。授業では、現代社会の諸問題を、学生諸氏と共に論究していきたい。

キーワード/Keyword(s)

討議, 話し合い活動, 合意形成, 社会問題, 主体的学び

到達目標/Learning Objectives

1. 現代社会の多様な問題の本質的意味を理解できる。
2. 自他の意見の相違を理解して、異なる価値観の意味を把握し、合意形成を図ることができる。
3. アクティブラーニング的な学習活動を実践できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：授業概要のガイダンス

（振り返りシート）授業概要の説明を受けた上で、シートを使って自己のこれまでの学習法との違いを理解する。

第2回：【授業内容】モラル・ジレンマ的討論の理論と実践（グループワーク）

（シンク・ペア・シェア）ジレンマ教材を使った討議活動を行う。

【授業外学修】テキスト74～75頁の教材を読んでおくこと。教材の内容を踏まえ、授業内でグループワークを行う。

第3回：【授業内容】模擬裁判的討論の理論と実践（グループワーク）

（シンク・ペア・シェア）文学作品を活用した模擬裁判活動を通して道徳的判断の問題を考える。

【授業外学修】テキスト75～82頁の教材「羅生門」を予め読んでおくこと。教材の内容を理解した上で授業内で模擬裁判的討論を行う。

第4回：【授業内容】ディベート的討論の理論と実践（グループワーク）

（ディベート）価値判断を求められる課題をディベートし、その特徴と限界性を考える。

【授業外学修】テキスト86～87頁の教材を予め読んでおくこと。教材の内容を理解した上で授業内でディベート的討論を行う。

第5回：【授業内容】ディスカス的討論の理論と実践（グループワーク）

（PBL）合意形成を目標とする討議活動の理論を学び、教材を使ってディスカス的討論を実践した後、モラル・ジレンマ、模擬裁判的討論、ディベート的討論の特徴を比較検討した上で、ディスカス的討論の独自性を理解する。

【授業外学修】授業後に、テキスト92～101頁のディスカス教材を分析する。

第6回：【授業内容】ディスカス課題の考察：「公共施設と住民自治」

<p>(PBL) 公共施設の建設をめぐる地域の問題をPBLによって討議し、その解決策の合意形成</p> <p>【授業外学修】テキスト102~104頁のディスカス教材「公共性と住民自治」を予め読んでおく。</p> <p>第7回：【授業内容】プレゼンテーションと番組作成</p> <p>(プレゼンテーション・番組作成)：解決策のプレゼンテーションを行うが、その内容は</p> <p>第8回：【授業内容】報道番組「公共施設と住民自治」の発表とまとめ</p> <p>(報道番組作成) 各グループの報道番組の発表と授業のまとめ。</p>	<p>を図る。</p> <p>でよく。</p> <p>次回の番組作成の概要発表となる。</p>
---	---

履修上の注意/Notes

<p>当然のことだが無断欠席や遅刻は厳禁である。グループによる「協働」活動が多いので、責任ある行動が求められる。授業で使用するテキストにしたがって予習と復習の箇所を事前に指示するので確実に課題を行ってくるようにしていただきたい。オフィス・アワーは月曜4限とする。</p>

情報端末の活用

<p>2回目以降の授業では、ネット検索によって調べ学習を毎回行うためPC, スマートフォン等を持参すること。</p>
--

成績評価基準/Evaluation criteria

<p>A + : 到達目標の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>A : 到達目標の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>B : 到達目標の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>C : 到達目標の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>D : 到達目標の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。</p>

成績の評価方法/Grading

<p>8回目の期末試験は実施しない。成績は授業で適宜配布する①課題ワークシート (50点) とレポート (50点) によって評価する。</p>

教科書/Textbook(s)

教科書1	
書名	主体的・対話的な<学び>の理論と実践－「自律」と「自立」を目指す教育－
著者名	小川哲哉
出版社	青簡舎
出版年	2018
ISBN	
教材費	2600

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7761	ナンバリング	KB-CRC-111-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	川嶋 秀之				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語の世界

授業の概要/Course Overview

人と人のコミュニケーションの中心にあるのが言葉である。一般的には言葉は伝達的手段と見なされがちであるが、言葉は単なる手段であることを越えて我々の認識と深く関わる存在である。最初に身に付けた母語である日本語を内省しながら、言葉の本質・構造・伝達・表現・理解などの問題を考えていく。

キーワード/Keyword(s)

言葉 日本語 認識 伝達 構造 表現 文章 理解

到達目標/Learning Objectives

- ・言葉と存在・認識の関係について理解できる。
- ・伝達の場の構造について理解できる。
- ・言葉どうしの結合である文章表現について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス 人間と言葉

【授業外学修】自分の言語観を振り返って受講してください。

第2回【授業内容】 言葉を構成する音と意味について

【授業外学修】日本語にはいくつの音があるか数えてから受講し、授業後は数える方法を復習してください。

第3回【授業内容】 言葉が伝わる場の構造について

【授業外学修】言葉が通じるのか、通じないのか、自ら考えてから授業に臨んでください。

第4回【授業内容】 言葉と物事の認識について

【授業外学修】「机」はそれぞれ色や形が異なるのにどうして「机」と呼ばれるのでしょうか。抽象的思考が必要になりますので、自ら考えてから授業に臨んだ後しっかり復習してください。

第5回【授業内容】 言葉の規範と逸脱の問題について

【授業外学修】「ら抜き言葉」について取り上げます。どうして「ら抜き言葉」はいけないのか。理由を考えたから授業に臨んでください。授業では「ら抜き言葉」を肯定的に扱いますので、その論点を復習して押さえてください。

第6回【授業内容】 言葉を理解するという営為について

【授業外学修】俳句を取り上げます。「美しや障子の穴の天の川」（一茶）をどう理解するか前もって考えて授業に臨んでください。授業後は理解するための方法を復習してください。

第7回【授業内容】 言葉の結合である文章の構造について

【授業外学修】文章を構造的観点から把握します。具体と抽象の言葉の往復運動の方法を復習してください。

第8回【授業内容】 まとめ：言葉によって何がどう理解されるか（45分） 試験

【授業外学修】 ノートをまとめなおして試験に臨んでください。

履修上の注意/Notes

特にありませんが、性急な解決を求めず、じっくりと取り組む姿勢をもって受講してください。

オフィスアワー：金曜 5 講時 教育学部D棟 4 階 4 0 3 川嶋研究室

メールアドレス：hideyuki.kawashima.dragon@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

情報端末は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

8回目の授業の後半（45分）に試験を実施する。試験は論述式で行い、説明の理路を重視する。評価の観点は到達目標に準じ、到達度の高低に応じて評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	言葉と文化
著者名	鈴木孝夫
出版社	岩波書店
出版年	1973
ISBN	4004120985
教材費	700

参考書2

書名	記号論への招待
著者名	池上嘉彦
出版社	岩波書店
出版年	1984
ISBN	4004202582
教材費	780

参考書3

書名	ことばとは何か
著者名	田中克彦
出版社	筑摩書房
出版年	2004
ISBN	4480061630
教材費	720

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7763	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	山田 桂子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

南アジアの言語と文化

授業の概要/Course Overview

世界には欧米言語以外の言語がたくさんある。特に多民族国家インドはいくつもの大言語を要する言語文化の宝庫である。この授業ではインドの中でももっとも多く使われるナーガリー文字の読み書きを学習することを通じて、世界の言語文化の多様性や奥行きを具体的に実感し、国際人としてのグローバルな感覚や教養を広げる一助とする。

キーワード/Keyword(s)

南アジア インド ナーガリー文字 ヒンディー語 言語文化 言語政策 言語教育 多民族 多文化主義

到達目標/Learning Objectives

- ①ナーガリー文字の基本的な読み書きができるようになる。
- ②インドの言語状況について基礎知識を身に付ける。
- ③世界の言語文化の数の多さ、多様性、奥行きを具体的に理解し、バランスのとれた国際理解を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1【授業内容】シラバスでガイダンス 母音字の書き方
【授業外学習】母音字の読み書きの復習
- 2【授業内容】小テスト、子音字（ka～na）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（ka～na）までの読み書きの復習
- 3【授業内容】小テスト、子音字（Ta～na）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（Ta～na）の読み書きの復習
- 4【授業内容】小テスト、子音字（pa～ha）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（pa～ha）の読み書きの復習
- 5【授業内容】小テスト、結合文字の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】結合文字の読み書きの復習
- 6【授業内容】小テスト、ひらがな・ナーガリー文字対応、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】ひらがな・ナーガリー文字対応の復習
- 7【授業内容】小テスト、ワープロの使い方、映像鑑賞
【授業外学習】ナーガリー文字による書き下し練習
- 8【授業内容】復習と質問、最終テスト

【アクティブ・ラーニング】2～7回の授業では小テストを実施し、採点してチェックしたものを次回の小テストの前に返却する。返却後、チェックで明らかになった問題点や学生からの質問に対応する時間を設け、それがひととおり終了したのちに当日の小テストを実施する。

履修上の注意/Notes

- ・初回ガイダンス回に欠席した者は、事前登録をしても受講不可とする。
- ・遅刻や欠席をすると冒頭の小テストに参加できず、その回の得点が0点になるので気を付けること。

情報端末の活用

第7回目の授業において、パソコン、タブレット、スマホ等を使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : ナーガリー文字の仕組みを理解し、読み書きが完全にできるようになっている。
- A : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きであれば問題なく習得できている。
- B : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きがだいたい習得できている。
- C : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きが一部を除き習得できている。
- D : ナーガリー文字の仕組みが理解できておらず、基本的な読み書きが習得できていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の小テストと最終テストの合計点を100とし、その相対評価によって成績を付ける。いわゆる「期末試験」は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特に指定しない 参考書：「華麗なるインド系文字」町田和彦 白水社 2400円、「世界の文字とことば」町田和彦 河出書房新社 1800円、「南アジアを知る辞典」平凡社 8000円
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7764	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	森下 嘉之				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

世界の中のヨーロッパ

授業の概要/Course Overview

ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

キーワード/Keyword(s)

グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネイション、東欧

到達目標/Learning Objectives

21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶ。

ディプロマポリシー：1.世界の俯瞰的理解

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：「ヨーロッパ」とはなにか
2. フランス革命の歴史的意義
3. 帝国主義の時代
4. 近代ヨーロッパの家族と工業化
5. 資本主義の発展と労働者
6. 「国民国家」「ナショナリズム」の19世紀
7. 第一次世界大戦への道
8. ヴェルサイユ体制/期末試験(45分)

【授業外学修】（1-8回共通）授業内容および試験出題範囲について、配布レジュメ・資料を事前・事後にダウンロードの上確認しておくこと。

授業の内容理解については最終回の試験において確認する。

レスポンスペーパーでは授業各回の内容に関する「問い」を提示するので、聞き逃さないこと

履修上の注意/Notes

授業用レジュメおよび史料・教材については、教務情報ポータルにアップするので、事前に必ずダウンロードの上持参すること。ただし、史

料・教材の分量が多い場合にはその限りではない。

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

オフィスパワー：火曜昼休み

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、PC持参が望ましい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：すべての回の授業内容を歴史的に理解したうえで、適切な事例を踏まえた文章を書くことができる。

A：すべての回の授業内容を歴史的に理解していることがわかる文章を書くことができる。

B：おおよその授業の内容を歴史的に理解していることが文章から読み取れる。

C：授業内容を理解していることが文章から読み取れる。

D：授業内容の理解ができておらず、回答の文章に著しい問題がある。

成績の評価方法/Grading

最終回の試験により評価する。試験は記述式。

授業内容を理解したうえで、試験で提示する「問いかけ」に自分の考えでこたえること。

レジュメ内容をつなぎ合わせただけの答案では高評価とはならないので注意すること

教科書/Textbook(s)

備考	毎回の授業レジュメが「教科書」 参考書については購入までは求めないが、以下をあげておく。南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年（3200円+税）木畑洋一『20世紀の歴史』岩波新書、2014年（860円+税）
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7765	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

多文化共生

授業の概要/Course Overview

多文化社会日本の現状と課題を、様々な視点から考察することを通して、多文化共生について理解を深める。また、日本人性の視点や多文化教育の視点、社会正義のための教育の視点、グローバルな視点から多文化共生について考え、多文化共生のための取り組みや実践についての理解を深めるとともに、授業内外での活動を通して、多文化共生に向けての資質の基礎を養う。

キーワード/Keyword(s)

多文化共生、多様性、多文化教育、海外につながる子どもたち、日本人性、アイデンティティ
--

到達目標/Learning Objectives

多文化社会日本の現状と課題を様々な側面から理解し、説明できる。 グローバルな視点から見た多文化共生について考えを深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>第1回 オリエンテーション、アイデンティティについて考える</p> <p>第2回 「文化」について考えるー批判的分析の視点ー</p> <p>第3回 「日本人性」とはー立場の特権性から社会をみる</p> <p>第4回 アメリカにおける人種差別と多文化教育</p> <p>第5回 外国につながる子どもたちと多文化共生教育</p> <p>第6回 地域における多文化共生の取り組み</p> <p>第7回 グローバルな視点から見た多文化共生</p> <p>第8回 発表、まとめ</p> <p>【アクティブ・ラーニング】</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての授業において、講義内容に関するグループ・ディスカッション（シンク・ペア・シェア、ラウンドロビン等）を行う。 第8回ではグループ内で発表を行う。 すべての授業において、リフレクティブ・ジャーナルを記入し、学んだことや疑問に思ったことについて振り返りを行う。 <p>【授業外学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に配付する資料を読んでおくこと。 授業で取り扱う内容だけでなく、積極的に「多文化」や「多文化共生」に関連するニュース記事やウェブサイト、文献などについて調べ、知識や視野を広げることが望ましい。 最終レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、授業内で説明する執筆要綱の指示に従い、作成すること。
--

履修上の注意/Notes

1. 授業内で行う活動（グループディスカッション等）に積極的に参加すること
2. 他者の考えや意見を聞くこと
3. 3回遅刻した場合は、1回欠席したものとみなす。
4. 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。

オフィスパワー：火曜3講時

情報端末の活用

- ・タスク、および課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。
- ・発表ではPCを使用する予定。詳細については授業内で指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を十分に修得し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を修得し、優れた学修成果を上げている。

B：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を概ね修得し、学修成果を概ね達成している。

C：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、合格と認められる最低限の到達目標に届いている

D：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方が修得できておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レポート課題40%、タスク10%、発表25%、授業貢献度・振り返り25%

期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	多文化共生のためのテキストブック
著者名	松尾知明著
出版社	明石書店
出版年	2011
ISBN	978-4750334509
教材費	2400

参考書2

書名	「多文化共生」は可能か：教育における挑戦
著者名	馬淵仁編著
出版社	勁草書房
出版年	2011
ISBN	978-4326250691

教材費	2800
-----	------

参考書3

書名	対話で育む多文化共生入門：ちがいを楽しみ、ともに生きる社会をめざして
著者名	倉八順子著
出版社	明石書店
出版年	2016
ISBN	978-4750343822
教材費	2200

参考書4

書名	異文化コミュニケーション論：グローバル・マインドとローカル・アフェクト
著者名	八島智子, 久保田真弓 著
出版社	松柏社
出版年	2012
ISBN	978-4775401842
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7766	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	鈴木 敦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

信じる勉強・疑う勉強
Accepted Theories and Examination

授業の概要/Course Overview

大学入学以前の勉強で刷り込まれてきた「（歴史の）勉強＝暗記」という認識から脱却し「通説を疑い・調べ・考え・論ずる＝大学での（歴史の）勉強」へと本格的に移行することを目指す。中国考古学の素材を用いることが多いが、高校での世界史履修の有無・程度は問わない。履修生が自らの頭を使い・手と口を動かして到達目標をクリアできるように、反転授業とグループディスカッションを多用しつつ運営していく。

キーワード/Keyword(s)

大学での勉強、歴史・考古、反転授業、グループディスカッション、ブレインストーミング、KJ法、ルーブリック

到達目標/Learning Objectives

- (1)「当たり前」とされていることを鵜呑みにせず、常に検証する姿勢を持つことができるようになる
- (2)自分の考えを論理的にまとめ、語る／記述することができるようになる
- (3)自分の考えに基づいて討論し、グループとしての見解をまとめることができるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス、幸楽苑文書へのアプローチ
- 第2回：幸楽苑文書の内容を巡るグループディスカッションと報告
- 第3回：幸楽苑文書の扱いを巡るグループディスカッションと報告
- 第4回：グループで考える技法
- 第5回：教科書の記述を巡るグループディスカッションと報告
- 第6回：「世界遺産・殷墟」は「殷墟」ではない？
- 第7回：新説が生まれる時
- 第8回：個人の達成目標ルーブリックと当日レポート

〔授業外学修〕

予習を前提とする反転授業を多用します。具体的には「何かを調べれば、たった一つの正解が見つかる」という問いとは異なる、「正解かどうか分からない・正解が一つとは限らない」問いが投げかけられますので、まずは「考えること」から始め、「自分の考えをメモ／短文にすること」、さらに「グループディスカッションの場での発言を準備すること」が、予習のポイントです。その上で、授業を通じて得た認識に基づき、歴史学・中国考古学に限らない身の回りの様々なことについて、あの認識に基づいてこれを考えたらどうなるだろうか？と「自問すること」・「自問することを習慣化すること」が、復習のポイントです。この予習・復習を確実に行っておけば、最終回での「個人の達成目標ルーブリック」も比較的容易に作成出来ると思います。

[アクティブ・ラーニング]

全ての回で、上記授業外学修とセットとなる何らかのアクティブ・ラーニングが課されます。

履修上の注意/Notes

- (1) 予習・復習とも受験勉強のそれとは大きく異なります。特に前半部分では違和感も大きいと思いますが、まずは異文化体験のつもりで取り組んで下さい。
- (2) 遅刻は欠席扱いとしますので、注意して下さい。
- (3) オフィスアワーは火曜4限ですが、事前にアポを取ってもらえれば他の時間帯でも極力対応します。

情報端末の活用

教室でドリームキャンパスの確認等をしてもらうことがあります

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について非常に高いレベルで達成されている
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
B : 到達目標の3点について十分なレベル以上で達成されている
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている
D : 到達目標の3点のうち1点以上について最低限のレベルに到達していない

成績の評価方法/Grading

授業期間中の提出物40%、第8回後半で行う「当日レポート」を60%とし、上記「到達目標」により評価します。いわゆる試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし。授業内で関連資料を配付する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB7767	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	今泉 友里				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学校教育を振り返る

授業の概要/Course Overview

学校が社会の中で抱えてしまう問題について、哲学者、社会学者、実践者の書籍などをもとに議論し、自分自身の学校教育の経験を振り返るとともに、これからの学校教育の在り方について考えていきましょう。

キーワード/Keyword(s)

ピエール・ブルデュー、バジル・バーンズテイン、ミシェル・フーコー、パウロ・フレイレ、イヴァン・イリイチ、潜在的カリキュラム、オルタナティブ

到達目標/Learning Objectives

- ア. 学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的な観点から、体系立てて説明できる。
- イ. これからの学校の在り方について、これまでの知見をもとに考察できる。
- ウ. アとイの目標を達成するために、グループでの議論に積極的に参加できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：シラバスを用いたガイダンス、アクティブ・ラーニングとは何か
2. 学校という装置：学校の中の権力
3. 学校という装置：格差の再生産
4. フレイレ：『被抑圧者の教育学』を読む
5. イリイチ1：「学校化のむなしさ」『オルタナティブ制度変革の提唱』を読む（前半）
6. イリイチ2：「学校化のむなしさ」『オルタナティブ制度変革の提唱』を読む（後半）
7. イリイチ3：日本の現状との関連
8. まとめ：レポートの読みあい（45分）

【授業外学修】

復習として、授業中に担当しなかった部分についての資料をダウンロードして読んだ上で、ミニレポートを作成してください。

授業内に紹介した書籍や関連する書籍などを積極的に読んでください。

予習内容：

関連するニュース等にアンテナをはっておきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

毎回、アクティブ・ラーニングのための手法（ジグソー法を中心としたグループワークと、ワークシートへの記述と宿題のミニレポートを中心とした思考を外化する個人ワーク）を取り入れます。

履修上の注意/Notes

授業ではグループワークを多用します。積極的に参加してください。
授業中に担当しない資料があるため、復習は必須です。

情報端末の活用

講義中に教務情報ポータルにログインして小テストに回答してもらいますので、スマートフォンなどの機器を持参してください。
復習に必要な講義資料は教務情報ポータルから入手できます。
毎回のミニレポートは教務情報ポータルを通じて提出してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

各到達目標について次の基準にもとづいて評価をします。11ポイントでA+（90点以上）に相当し、10,9ポイントがA（80点以上90点未満）、8,7ポイントがB(70点以上80点未満)、6ポイントがC（60点以上70点未満）、5ポイント以下がD（60点未満）に相当します。

ア：

- 4.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的、またその他の観点を総合し、自らの経験と結び付けて体系立てて説明できる。
- 3.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、歴史的、社会学的な観点から、体系立てて説明できる。
- 2.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、客観的に説明できる。
- 1.学校が社会の中で持つ機能と抱える問題について、経験的な説明しかできない。または説明できない。
(ミニレポートと期末レポートにより評価)

イ：

- 4.これからの学校の在り方について、複数の知見をもとに考察し、具体的な行動につなげることができる。
- 3.これからの学校の在り方について、複数の知見をもとに考察できる。
- 2.これからの学校の在り方について、1つの知見をもとに考察できる。
- 1.これからの学校の在り方について、他者の知見に基づかない考察しかできない。または考察できない。
(ミニレポートと期末レポートにより評価)

ウ：

- 3.アとイの目標を達成するために、グループでの議論に積極的に参加できる。
- 2.アとイの目標を達成するために、グループワークやディスカッションに参加できる。
- 1.グループワークやディスカッションに参加できない。
(授業中の取り組みにより評価)

成績の評価方法/Grading

授業中の取り組み：32点（各4点×8回）／毎回のミニレポート：32点（各4点×8回）／期末レポート：36点

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし
----	----------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7768	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	小川 哲哉				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

討議活動によるアクティブラーニングの実践

授業の概要/Course Overview

これからの学習活動では、知識を教え込むような「知識伝達型」ではなく、知識や情報を使いこなしていく「知識活用型」の学習活動が重要になる。本授業では、討議活動を通してアクティブラーニング的な学びを考えていきたい。授業では、現代社会の諸問題を、学生諸氏と共に論究していきたい。

キーワード/Keyword(s)

討議, 話し合い活動, 合意形成, 社会問題, 主体的学び

到達目標/Learning Objectives

1. 現代社会の多様な問題の本質的意味を理解できる。
2. 自他の意見の相違を理解して、異なる価値観の意味を把握し、合意形成を図ることができる。
3. アクティブラーニング的な学習活動を実践できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：授業概要のガイダンス

（振り返りシート）授業概要の説明を受けた上で、シートを使って自己のこれまでの学習法との違いを理解する。

第2回：【授業内容】モラル・ジレンマ的討論の理論と実践（グループワーク）

（シンク・ペア・シェア）ジレンマ教材を使った討議活動を行う。

【授業外学修】テキスト74～75頁の教材を読んでおくこと。教材の内容を踏まえ、授業内でグループワークを行う。

第3回：【授業内容】模擬裁判的討論の理論と実践（グループワーク）

（シンク・ペア・シェア）文学作品を活用した模擬裁判活動を通して道徳的判断の問題を考える。

【授業外学修】テキスト75～82頁の教材「羅生門」を予め読んでおくこと。教材の内容を理解した上で授業内で模擬裁判的討論を行う。

第4回：【授業内容】ディベート的討論の理論と実践（グループワーク）

（ディベート）価値判断を求められる課題をディベートし、その特徴と限界性を考える。

【授業外学修】テキスト86～87頁の教材を予め読んでおくこと。教材の内容を理解した上で授業内でディベート的討論を行う。

第5回：【授業内容】ディスクルスの討論の理論と実践（グループワーク）

（PBL）合意形成を目標とする討議活動の理論を学び、教材を使ってディスクルスの討論を実践した後、モラル・ジレンマ、模擬裁判的討論、ディベート的討論の特徴を比較検討した上で、ディスクルスの討論の独自性を理解する。

【授業外学修】授業後に、テキスト92～101頁のディスクルス教材を分析する。

第6回：【授業内容】ディスクルス課題の考察：「公共施設と住民自治」

<p>(PBL) 公共施設の建設をめぐる地域の問題をPBLによって討議し、その解決策の合意形成</p> <p>【授業外学修】テキスト102～104頁のディスカス教材「公共性と住民自治」を予め読ん</p> <p>第7回：【授業内容】プレゼンテーションと番組作成</p> <p>(プレゼンテーション・番組作成)：解決策のプレゼンテーションを行うが、その内容は</p> <p>第8回：【授業内容】報道番組「公共施設と住民自治」の発表とまとめ</p> <p>(報道番組作成) 各グループの報道番組の発表と授業のまとめ。</p>	<p>を図る。</p> <p>しておく。</p> <p>次回の番組作成の概要発表となる。</p>
---	--

履修上の注意/Notes

<p>当然のことだが無断欠席や遅刻は厳禁である。グループによる「協働」活動が多いので、責任ある行動が求められる。授業で使用するテキストにしたがって予習と復習の箇所を事前に指示するので確実に課題を行ってくるようにしていただきたい。オフィス・アワーは月曜4限とする。</p>

情報端末の活用

<p>2回目以降の授業では、ネット検索によって調べ学習を毎回行うためPC, スマートフォン等を持参すること。</p>
--

成績評価基準/Evaluation criteria

<p>A + : 到達目標の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>A : 到達目標の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>B : 到達目標の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>C : 到達目標の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。</p> <p>D : 到達目標の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。</p>

成績の評価方法/Grading

<p>8回目の期末試験は実施しない。成績は授業で適宜配布する①課題ワークシート (50点) とレポート (50点) によって評価する。</p>

教科書/Textbook(s)

教科書1	
書名	主体的・対話的な<学び>の理論と実践－「自律」と「自立」を目指す教育－
著者名	小川哲哉
出版社	青簡舎
出版年	2018
ISBN	
教材費	2600

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7769	ナンバリング	KB-CRC-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	川嶋 秀之				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本語の世界

授業の概要/Course Overview

人と人のコミュニケーションの中心にあるのが言葉である。一般的には言葉は伝達的手段と見なされがちであるが、言葉は単なる手段であることを越えて我々の認識と深く関わる存在である。最初に身に付けた母語である日本語を内省しながら、言葉の本質・構造・伝達・表現・理解などの問題を考えていく。

キーワード/Keyword(s)

言葉 日本語 認識 伝達 構造 表現 文章 理解

到達目標/Learning Objectives

- ・言葉と存在・認識の関係について理解できる。
- ・伝達の場の構造について理解できる。
- ・言葉どうしの結合である文章表現について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス 人間と言葉

【授業外学修】自分の言語観を振り返って受講してください。

第2回【授業内容】 言葉を構成する音と意味について

【授業外学修】日本語にはいくつの音があるか数えてから受講し、授業後は数える方法を復習してください。

第3回【授業内容】 言葉が伝わる場の構造について

【授業外学修】言葉が通じるのか、通じないのか、自ら考えてから授業に臨んでください。

第4回【授業内容】 言葉と物事の認識について

【授業外学修】「机」はそれぞれ色や形が異なるのにどうして「机」と呼ばれるのでしょうか。抽象的思考が必要になりますので、自ら考えてから授業に臨んだ後しっかり復習してください。 必

第5回【授業内容】 言葉の規範と逸脱の問題について

【授業外学修】「ら抜き言葉」について取り上げます。どうして「ら抜き言葉」はいけないのか。理由を考えてから授業に臨んでください。授業では「ら抜き言葉」を肯定的に扱いますので、その論点を復習して押さえてください。 て

第6回【授業内容】 言葉を理解するという営為について

【授業外学修】俳句を取り上げます。「美しや障子の穴の天の川」（一茶）をどう理解するか前もって考えて授業に臨んでください。授業後は理解するための方法を復習してください。 授

第7回【授業内容】 言葉の結合である文章の構造について

【授業外学修】文章を構造的観点から把握します。具体と抽象の言葉の往復運動の方法を復習してください。

第8回【授業内容】 まとめ：言葉によって何がどう理解されるか（45分） 試験

【授業外学修】 ノートをまとめなおして試験に臨んでください。

履修上の注意/Notes

特にありませんが、性急な解決を求めず、じっくりと取り組む姿勢をもって受講してください。

オフィスアワー：金曜 5 講時 教育学部D棟 4 階 4 0 3 川嶋研究室

メールアドレス：hideyuki.kawashima.dragon@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

情報端末は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A：	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B：	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C：	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D：	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

8回目の授業の後半（45分）に試験を実施する。試験は論述式で行い、説明の理路を重視する。評価の観点は到達目標に準じ、到達度の高低に応じて評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	言葉と文化
著者名	鈴木孝夫
出版社	岩波書店
出版年	1973
ISBN	4004120985
教材費	700

参考書2

書名	記号論への招待
著者名	池上嘉彦
出版社	岩波書店
出版年	1984
ISBN	4004202582
教材費	780

参考書3

書名	ことばとは何か
著者名	田中克彦
出版社	筑摩書房
出版年	2004
ISBN	4480061630
教材費	720

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7770	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	山田 桂子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

南アジアの言語と文化

授業の概要/Course Overview

世界には欧米言語以外の言語がたくさんある。特に多民族国家インドはいくつもの大言語を要する言語文化の宝庫である。この授業ではインドの中でももっとも多く使われるナーガリー文字の読み書きを学習することを通じて、世界の言語文化の多様性や奥行きを具体的に実感し、国際人としてのグローバルな感覚や教養を広げる一助とする。

キーワード/Keyword(s)

南アジア インド ナーガリー文字 ヒンディー語 言語文化 言語政策 言語教育 多民族 多文化主義

到達目標/Learning Objectives

- ①ナーガリー文字の基本的な読み書きができるようになる。
- ②インドの言語状況について基礎知識を身に付ける。
- ③世界の言語文化の数の多さ、多様性、奥行きを具体的に理解し、バランスのとれた国際理解を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1【授業内容】シラバスでガイダンス 母音字の書き方
【授業外学習】母音字の読み書きの復習
- 2【授業内容】小テスト、子音字（ka～na）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（ka～na）までの読み書きの復習
- 3【授業内容】小テスト、子音字（Ta～na）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（Ta～na）の読み書きの復習
- 4【授業内容】小テスト、子音字（pa～ha）の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】子音字（pa～ha）の読み書きの復習
- 5【授業内容】小テスト、結合文字の読み書き、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】結合文字の読み書きの復習
- 6【授業内容】小テスト、ひらがな・ナーガリー文字対応、ミニ講義、映像鑑賞
【授業外学習】ひらがな・ナーガリー文字対応の復習
- 7【授業内容】小テスト、ワープロの使い方、映像鑑賞
【授業外学習】ナーガリー文字による書き下し練習
- 8【授業内容】復習と質問、最終テスト

【アクティブ・ラーニング】2～7回の授業では小テストを実施し、採点してチェックしたものを次回の小テストの前に返却する。返却後、チェックで明らかになった問題点や学生からの質問に対応する時間を設け、それがひととおり終了したのちに当日の小テストを実施する。

履修上の注意/Notes

- ・初回ガイダンス回に欠席した者は、事前登録をしても受講不可とする。
- ・遅刻や欠席をすると冒頭の小テストに参加できず、その回の得点が0点になるので気を付けること。

情報端末の活用

第7回目の授業において、パソコン、タブレット、スマホ等を使用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : ナーガリー文字の仕組みを理解し、読み書きが完全にできるようになっている。
- A : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きであれば問題なく習得できている。
- B : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きがだいたい習得できている。
- C : ナーガリー文字の仕組みを理解し、基本的な読み書きが一部を除き習得できている。
- D : ナーガリー文字の仕組みが理解できておらず、基本的な読み書きが習得できていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の小テストと最終テストの合計点を100とし、その相対評価によって成績を付ける。いわゆる「期末試験」は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特に指定しない 参考書：「華麗なるインド系文字」町田和彦 白水社 2400円、「世界の文字とことば」町田和彦 河出書房新社 1800円、「南アジアを知る辞典」平凡社 8000円
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7771	ナンバリング	KB-CRC-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

多文化共生

授業の概要/Course Overview

多文化社会日本の現状と課題を、様々な視点から考察することを通して、多文化共生について理解を深める。また、日本人性の視点や多文化教育の視点、社会正義のための教育の視点、グローバルな視点から多文化共生について考え、多文化共生のための取り組みや実践についての理解を深めるとともに、授業内外での活動を通して、多文化共生に向けての資質の基礎を養う。

キーワード/Keyword(s)

多文化共生、多様性、多文化教育、海外につながる子どもたち、日本人性、アイデンティティ

到達目標/Learning Objectives

多文化社会日本の現状と課題を様々な側面から理解し、説明できる。
グローバルな視点から見た多文化共生について考えを深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション、アイデンティティについて考える
- 第2回 「文化」について考えるー批判的分析の視点ー
- 第3回 「日本人性」とはー立場の特権性から社会をみる
- 第4回 アメリカにおける人種差別と多文化教育
- 第5回 外国につながる子どもたちと多文化共生教育
- 第6回 地域における多文化共生の取り組み
- 第7回 グローバルな視点から見た多文化共生
- 第8回 発表、まとめ

【アクティブ・ラーニング】

- ・すべての授業において、講義内容に関するグループ・ディスカッション（シンク・ペア・シェア、ラウンドロビン等）を行う。
- ・第8回ではグループ内で発表を行う。
- ・すべての授業において、リフレクティブ・ジャーナルを記入し、学んだことや疑問に思ったことについて振り返りを行う。

【授業外学修】

- ・事前に配付する資料を読んでおくこと。
- ・授業で取り扱う内容だけでなく、積極的に「多文化」や「多文化共生」に関連するニュース記事やウェブサイト、文献などについて調べ、知識や視野を広げることが望ましい。
- ・最終レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、授業内で説明する執筆要綱の指示に従い、作成すること。

履修上の注意/Notes

1. 授業内で行う活動（グループディスカッション等）に積極的に参加すること
2. 他者の考えや意見を聞くこと
3. 3回遅刻した場合は、1回欠席したものとみなす。
4. 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。

オフィスパワー：火曜3講時

情報端末の活用

- ・タスク、および課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。
- ・発表ではPCを使用する予定。詳細については授業内で指示する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を十分に修得し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を修得し、優れた学修成果を上げている。

B：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方を概ね修得し、学修成果を概ね達成している。

C：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、合格と認められる最低限の到達目標に届いている

D：多文化共生について、授業で取り上げた基本的な知識と考え方が修得できておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レポート課題40%、タスク10%、発表25%、授業貢献度・振り返り25%

期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	多文化共生のためのテキストブック
著者名	松尾知明著
出版社	明石書店
出版年	2011
ISBN	978-4750334509
教材費	2400

参考書2

書名	「多文化共生」は可能か：教育における挑戦
著者名	馬淵仁編著
出版社	勁草書房
出版年	2011
ISBN	978-4326250691

教材費	2800
-----	------

参考書3

書名	対話で育む多文化共生入門：ちがいを楽しみ、ともに生きる社会をめざして
著者名	倉八順子著
出版社	明石書店
出版年	2016
ISBN	978-4750343822
教材費	2200

参考書4

書名	異文化コミュニケーション論：グローバル・マインドとローカル・アフェクト
著者名	八島智子, 久保田真弓 著
出版社	松柏社
出版年	2012
ISBN	978-4775401842
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7772	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	鈴木 敦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

信じる勉強・疑う勉強
Accepted Theories and Examination

授業の概要/Course Overview

大学入学以前の勉強で刷り込まれてきた「（歴史の）勉強＝暗記」という認識から脱却し「通説を疑い・調べ・考え・論ずる＝大学での（歴史の）勉強」へと本格的に移行することを目指す。中国考古学の素材を用いることが多いが、高校での世界史履修の有無・程度は問わない。履修生が自らの頭を使い・手と口を動かして到達目標をクリアできるように、反転授業とグループディスカッションを多用しつつ運営していく。

キーワード/Keyword(s)

大学での勉強、歴史・考古、反転授業、グループディスカッション、ブレインストーミング、KJ法、ルーブリック

到達目標/Learning Objectives

- (1)「当たり前」とされていることを鵜呑みにせず、常に検証する姿勢を持つことができるようになる
- (2)自分の考えを論理的にまとめ、語る／記述することができるようになる
- (3)自分の考えに基づいて討論し、グループとしての見解をまとめることができるようになる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス、幸楽苑文書へのアプローチ
 第2回：幸楽苑文書の内容を巡るグループディスカッションと報告
 第3回：幸楽苑文書の扱いを巡るグループディスカッションと報告
 第4回：グループで考える技法
 第5回：教科書の記述を巡るグループディスカッションと報告
 第6回：「世界遺産・殷墟」は「殷墟」ではない？
 第7回：新説が生まれる時
 第8回：個人の達成目標ルーブリックと当日レポート

〔授業外学修〕

予習を前提とする反転授業を多用します。具体的には「何かを調べれば、たった一つの正解が見つかる」という問いとは異なる、「正解かどうか分からない・正解が一つとは限らない」問いが投げかけられますので、まずは「考えること」から始め、「自分の考えをメモ／短文にすること」、さらに「グループディスカッションの場での発言を準備すること」が、予習のポイントです。その上で、授業を通じて得た認識に基づき、歴史学・中国考古学に限らない身の回りの様々なことについて、あの認識に基づいてこれを考えたらどうなるだろうか？と「自問すること」・「自問することを習慣化すること」が、復習のポイントです。この予習・復習を確実に行っておけば、最終回での「個人の達成目標ルーブリック」も比較的容易に作成出来ると思います。

[アクティブ・ラーニング]

全ての回で、上記授業外学修とセットとなる何らかのアクティブ・ラーニングが課されます。

履修上の注意/Notes

- (1) 予習・復習とも受験勉強のそれとは大きく異なります。特に前半部分では違和感も大きいと思いますが、まずは異文化体験のつもりで取り組んで下さい。
- (2) 遅刻は欠席扱いとしますので、注意して下さい。
- (3) オフィスアワーは火曜4限ですが、事前にアポを取ってもらえれば他の時間帯でも極力対応します。

情報端末の活用

教室でドリームキャンパスの確認等をしてもらうことがあります

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について非常に高いレベルで達成されている
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている
B : 到達目標の3点について十分なレベル以上で達成されている
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている
D : 到達目標の3点のうち1点以上について最低限のレベルに到達していない

成績の評価方法/Grading

授業期間中の提出物40%、第8回後半で行う「当日レポート」を60%とし、上記「到達目標」により評価します。いわゆる試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書；特になし。授業内で関連資料を配付する。
----	-------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB7773	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 哲司				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人間科学への招待

授業の概要/Course Overview

21世紀を生きる私たちに必要な社会心理学および人間科学について学びます。単なる一方的な講義ではなく、提起された問題について受講生同士の対話（グループディスカッション）の中で考えを深めていきます。多くの人が当たり前のことと見なしている「常識」、その常識を解体してみると何が見えてくるかということも重要です。自然科学と人間科学の違いも理解しつつ、自ら「問うて学ぶ」という学問する姿勢も身につけます。

キーワード/Keyword(s)

心理学 社会心理学 人間科学と自然科学 常識をずらしてみる 社会問題 批判精神 モノサシ(価値観) 学問をすること

到達目標/Learning Objectives

①社会心理学および人間科学の基本的なスタンスを対話のなかで理解できる。②疑ってみるべき「常識」を見極め、自分なりのモノの見方ができる。③自分なりのモノサシ（価値観）を持ち、「学問をすること」の営みについて理解し、大学で学問する意義を把握できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたオリエンテーション：「社会的動物」としての私たち
 第2回 社会心理学とは何か：「社会」心理学と「社会心理」学
 第3回 社会心理学の視座：自分の内なるステレオタイプに気づく
 第4回 「わかっているつもり」からの脱却：新聞を読む、社会を読み解く、情報を発信する
 第5回 社会のなかで隠されている問題を知る：ジェンダーの窓から見ること
 第6回 心を知るために外の世界に目を向ける：他者と出会い自分を知る
 第7回 私たち人間はどんな存在か：状況に埋め込まれて生きる私たち
 第8回 さらに人間と社会の探究へ：関わる知、フィールドワークの知／小論文課題

【授業外学修】

(1) 時事問題を扱うこともあり、講義の順番や内容は多少変更になる可能性があります。常日頃から時事問題にもアンテナを張っていることが必要です。

(2) 授業時に提示される観点について、各自に1人1枚配布される「コミュニケーションカード」に授業後に書いて毎回提出してもらいます。コミュニケーションカードは、内容を担当教員が確認した上で、それぞれの学生に授業開始時に返却します。

【アクティブ・ラーニング】

(1) ほぼ毎回小グループをつかってディスカッションを行います。グループのメンバーは毎回替わります。知らない人とそこで出会って意見を交わし対話することを重視します。

(2) 対話の中から生まれる気づきを大事にしてください。その気づきは上記のコミュニケーションカードに書くなどして反映させてください。

い。

履修上の注意/Notes

普段からアンテナをはって社会のさまざまな情報に接し、毎回行う小グループでのディスカッションに積極的に参加してください。「参加する授業」です。原則として遅刻は許容しません。なお出席していないのにコミュニケーションカードだけを出すといったことがあった場合は、厳正に対処します。オフィス・アワー：木曜日のお昼休み (tetsuji.ito.64@vc.ibaraki.ac.jp宛にアポイントメントをとってください。)

情報端末の活用

・情報端末を必須として使用することはありませんが、授業でのディスカッション時に活用できるようにしておくことを推奨します。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人間科学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、それをもとした論を展開できる。
A：人間科学の基本的な知識と考え方を修得し、それをもとした論を展開できる。
B：人間科学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、それをもとした論を展開できる。
C：人間科学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、それをもとした論を展開できる。
D：人間科学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、それをもとした論を展開できない。

成績の評価方法/Grading

コミュニケーションカードで授業への参加の度合いを評価します（50%）。加えて最後に授業全体を振り返って学んだことを論じた小論文によって成績を評価します（50%）。小論文は、8回目の授業時間内に書いてもらいます。授業に実質的にどのくらい参加し学んだか、また全体を振り返って自ら学んだことをどう文章にしっかり書けるかが評価のポイントです。なお出席状況が悪い場合には単位認定の対象外となります。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	21世紀を生きる社会心理学：人間と社会の探究入門
著者名	伊藤哲司 著
出版社	北樹出版
出版年	2016
ISBN	9784779305115
教材費	1700

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス
著者名	好井 裕明 著
出版社	光文社
出版年	
ISBN	9784334033439
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB7774	ナンバリング	KB-CRC-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	アンドレエフ アントン				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

International Exchange

授業の概要/Course Overview

Through research and oral presentations about the home countries of affiliated foreign universities students learn about their culture, history, and society, as well as their higher education system and the courses and activities offered at each institution, while at the same time improving their abilities to communicate and perform various tasks in English.

キーワード/Keyword(s)

foreign cultures, communication, presentation skills, higher education, affiliated universities

到達目標/Learning Objectives

- 1) Learn about the culture, history, society and education system of each country, as well as the environment at affiliated institution it is home to
- 2) Acquire communication and oral presentation skills needed for a successful study abroad

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1st lecture : 【Classwork】 Lecturer's and students' self-introductions; introduction to the course; topics (home-countries and institutions: Country1, 2...) and students in charge

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Bulgaria's history, culture, society and education system as well as the environment at Sofia University as an affiliated institutions

2nd lecture : 【Classwork】 The lecturer gives a model presentation about Bulgaria; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 1*'s history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution (*To be decided based on students' study abroad plans)

3rd lecture : 【Classwork】 Student (or team) 1 gives a presentation about Country 1; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 2's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 2.

4th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 2 gives a presentation about Country 2; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 3's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 3.

5th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 3 gives a presentation about Country 3; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 4's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 4.

system as well as the environment at Affiliated Institution 4.

6th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 4 gives a presentation about Country 4; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 5's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 5.

7th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 5 gives a presentation about Country 5; Q&A; discussion

【Homework】 Using the Internet as a source, gather information about Country 6's history, culture, society and education system as well as the environment at Affiliated Institution 6.

8th lecture : 【Classwork】 Student (or team) 6 gives presentation about Country 6; Q&A; discussion; wrap-up session (No test)

履修上の注意/Notes

None

情報端末の活用

Students are advised to bring their Wi-Fi enabled devices with them.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Student's knowledge and English skills exceed the learning objectives

A : Student's knowledge and English skills perfectly meet the learning objectives

B : Student's knowledge and English skills almost meet the learning objectives

C : With a continuous effort student's knowledge and English are bound to meet the learning objectives

D : Student's knowledge and English skills are far from meeting the learning objectives

成績の評価方法/Grading

oral presentations(50%); class contribution(50%)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7775	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	澁谷 浩一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

シルクロードの文化と歴史

授業の概要/Course Overview

シルクロードが通っているユーラシア大陸の中央部（中央ユーラシア、内陸アジア）は、古代から多文化が共生する世界でした。この授業では、シルクロードの歴史からいくつかのトピックをとりあげ、多様な言語、宗教、文化が共存し、お互いに影響を与えながら発展してきた具体的な様相を学びます。そこには文化や宗教の違いによって紛争が生じてしまいがちな現代世界を見つめ直すヒントがたくさん存在します。

キーワード/Keyword(s)

シルクロード 中央ユーラシア 多文化 共生 異文化 世界史 遊牧民 匈奴 スキタイ トルコ ウイグル ソグド人 モンゴル帝国

到達目標/Learning Objectives

（1）シルクロードの歴史・文化における多文化共生の有様について理解している。（2）授業に関連する諸事項について、積極的・主体的に関連文献・事典等を参照して調べる習慣が身についている。（3）シルクロードの歴史・文化における多文化共生の有様について基礎的な考察を行い、その結果を論理的な文章によって表現することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 はじめに：シラバスを使用したガイダンス、歴史の中から「多文化共生」を考える
- 2 中央ユーラシア、シルクロードという多文化世界
- 3 スキタイとペルシア帝国～ギリシア人ヘロドトスがとらえた異文化世界
- 4 匈奴という遊牧国家～漢人司馬遷がとらえた異文化世界
- 5 異文化の衝突と融合～世界史を変えた遊牧民の大移動
- 6 「トルコ」という名の遊牧国家と通商の民ソグド人の共生
- 7 ウイグルとシルクロード：オアシス地帯での多民族通商国家の発展
- 8 モンゴル帝国における多文化共生

【授業外学修】

（1）第2回から第8回までの各回では、事前にポータルシステムの「授業資料」欄を通じて事前準備課題を指示する。授業を理解する上で必要な重要事項等について指示に従って課題に取り組み、その結果を毎回授業時に提出すること。

（2）指示された内容だけでなく、自らの知識の度合い、関心に応じて歴史辞典（大学受験用の用語集は除く）や百科事典等を使って主体的に関連事項について調べ、知識及び視野を広げることが望ましい。百科事典検索は「ジャパンナレッジ」の利用をおすすめする。

（3）事前に配信する授業資料（原則として授業の1週間前に配信）にも事前に必ず目を通しておくこと。

（4）授業で紹介された参考文献については、積極的に手にとって読んでみることを。

（5）最終レポート作成にあたっては、授業全体の内容をよく振り返り、授業内で説明する執筆要項の指示に従って執筆すること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回までの各回冒頭では、前回授業で提出されたレスポンスシートの内容を振り返り、前回までの受講者の理解度・到達点を確認してから新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- (1) 事前配信する授業資料の利用方法については各自の判断に任せる。ただし、授業時に提出する事前準備シート（A4サイズ1枚、PDF形式）については必ず印刷し、手書きで準備の上授業に持参すること。
- (2) 遅刻欠席厳禁。授業冒頭で学生証を使った出席確認を行う。遅刻3回（学生証を忘れた場合は遅刻として扱う）で欠席1回分とみなす。
- (3) 授業に関係した指示・お知らせ、資料配信、課題提出に教務情報ポータルシステムを利用する。
- (4) オフィスアワー：火曜日の昼休み

情報端末の活用

- ・ 授業資料を印刷しない場合はPC等を持参して使用すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

平常点50%（事前準備課題への対応、毎回提出する「レスポンスシート」の内容等、評価の観点は到達目標1と2）、期末レポート50%（評価の観点には到達目標1と3）で評価する。期末レポートの課題内容については授業時間内に詳しく説明するのでその指示に従うこと。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中央ユーラシア史
著者名	小松 久男 編
出版社	山川出版社
出版年	2000
ISBN	9784634413405
教材費	3500

参考書2

書名	角川世界史辞典
著者名	西川正雄 [ほか] 編
出版社	角川書店
出版年	

ISBN	9784040321004
教材費	3990

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7776	ナンバリング	KB-CRC-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	甲斐 教行				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ミケランジェロの作品と思想

授業の概要/Course Overview

ミケランジェロ・ブオナローティは絵画・彫刻・建築・詩の四領域において創造性を発揮した西洋美術史上の巨匠である。この授業は、ミケランジェロの作品体系を主としてネオ・プラトニズム思想に基づいて解説する試みを紹介する。授業でとりあげる解釈はひとつの例であって絶対的なものではない。自分ならどう解釈するか、といった点にも意識を向けながら作品の魅力を鑑賞する習慣を養っていく手ほどきとした。ミケランジェロの思想を理解するためには聖書や神話、文学作品などさまざまな典拠の引用や参照が必要とされるが、詳細は授業の中で適宜紹介していく。

キーワード/Keyword(s)

イタリア、ルネサンス、フィレンツェ、ローマ、メディチ家、図像解釈、キリスト教、プラトン、ネオ・プラトニズム、ミケランジェロ

到達目標/Learning Objectives

1. ミケランジェロをはじめとするルネサンスの芸術表現と思想の関連について一定の理解ができる。
2. 美術作品の鑑賞において自分なりの指針が得られる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス システィーナ天井画の構造とその影響
- 【授業外学習】 テクストの46ページ～65ページについて、授業後でもかまわないので目を通しておくこと。
- 【授業内容】 システィーナ天井画の思想
- 【授業外学習】 テクストの12ページ～44ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 ルカ・シニョレツリとミケランジェロ《審判図》
- 【授業外学習】 テクストの128ページ～145ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《審判図》上半分の解説
- 【授業外学習】 テクストの145ページ～156ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《審判図》下半分の解説
- 【授業外学習】 テクストの156ページ～168ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 ミケランジェロの初期作品
- 【授業外学習】 テクストの4ページ～10ページ、98ページ～104ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《メディチ家墓廟》の意味
- 【授業外学習】 テクストの104ページ～126ページに目を通しておくこと。
- 【授業内容】 《ロンダニーニのピエタ》の諸案とその意味
- 【授業外学習】 テクストの170ページ～181ページに目を通しておくこと。

履修上の注意/Notes

遅刻をするとその回の授業の理解が困難となるので、定時に出席すること。オフィスアワー：木4。メールアドレス
noriyuki.kai.nrykai@vc.ibaraki.ac.jp
教育実習、介護等体験は欠席扱いとしないので事前に申し出ること。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末レポート課題により評価を行う。内容の理解に関して60%、授業体験による作品鑑賞の活性化に関して40%（評価の観点は到達目標の1と2）

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ミケランジェロ研究
著者名	カルロ・デル・ブラーヴォ 著
出版社	中央公論美術出版
出版年	2018
ISBN	9784805508565
教材費	2700

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7777	ナンバリング	KB-CRC-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	君塚 淳一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ビートルズと1960年代アメリカ：政治・文化・音楽

授業の概要/Course Overview

アメリカから多大な影響を受けたビートルズのメンバーが、1960年代にいかにもまた影響を与え、与えられたか。ブルース、ロックンロール、ブリテッシュインヴェージョンという音楽からベトナム戦争、宗教問題、また映画やPV制作やファッションなど文化について学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

ビートルズ、1960年代、アメリカ

到達目標/Learning Objectives

学生が、1960年代アメリカを理解し、ザ・ビートルズの活動とその影響など背景を説明できる。また主要な曲を知り、自身の視点で、「ビートルズと1960年代アメリカ：政治・文化・音楽」というタイトルで論述できる。更に講義で扱う彼らの曲を理解し、歌うことができる（毎回、曲を紹介して歌詞を理解した上でみんなで歌う）。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンス

第2回 基礎知識：1960年代以前（1）：アメリカ発ブルースとビートルズの関係、アメリカ発ロックンロールとビートルズの関係

第3回 基礎知識：1960年代以前（2）：アメリカ発ソウルとビートルズの関係

第4回 彼らは何者か？ビートルズの誕生：デヴュー前後、アメリカ上陸（1964）：TVエド・サリバンショー出演とその反響

第5回 アメリカ音楽界激震：British Invasionとは何か？

第6回 公演の終りと宗教・哲学とビートルズ アルバム『リボルバー』の転機 プロモーションビデオ作成、アルバム作成中心時代への移行 『サージェントペパーズ』

第7回 解散へのはじまり。4人各人の活動。『ザ・ビートルズ』（ホワイトアルバム）ゲリラ・ライブを残した『レット・イット・ビー』と名作『アビーロード』

第8回 試験

【授業外学修】

- （1）教科書に関する課題をだすので、教科書を事前に読んでおくこと
- （2）各授業回で扱った内容については、復習として教科書を読むこと
- （3）自身の視点で論述できるように、1960年代のアメリカの文化や政治について、定期的に考え、書くこと

履修上の注意/Notes

レンタルでは借りられない映像の紹介、毎回の資料配布があるので欠席や遅刻のないように。毎回、1曲はビートルズを歌いますのでそのつもりで受講すること。

情報端末の活用

第8回目でアンケートを実施する予定のため、PC、スマートフォン等持参すること

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 到達目標の3点を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 到達目標の3点と学修成果を概ね達成している。
C : 到達目標の3点について、合格と認められる最低限に届いている。
D : 到達目標の3点のについて、最低限に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

試験（論述式）、課題提出、授業への参加度を6:2:2で出す

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	アメリカンポップカルチャー 60年代を彩る偉人たち
著者名	君塚淳一
出版社	大学教育出版
出版年	1999
ISBN	88730-336-2
教材費	1600

備考 『アメリカン・ポップ・カルチャー 60年代を彩る偉人たち』大学教育出版1680円

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7778	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	コミュニケーションと芸術文化				
担当教員（ローマ字表記）	小林 英美				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

英国文化入門：再発見と再利用の文化史

授業の概要/Course Overview

英国（ブリテン島）の文化の歴史を18-19世紀を主軸にして、複数の時代にまたがるテーマごとに「再利用」「再発見」をキーワードにして、映像作品等も利用しながら概説する。たとえば文化遺産では、古代ローマ時代の公衆浴場が再活用された事例、芸術・文学では、シェイクスピア作品の後世における書き直しや多様な演出の事例などをとりあげる。

キーワード/Keyword(s)

英国, 文化, 芸術, スポーツ, 歴史, 再利用, 再発見, 文化財, 文化交流

到達目標/Learning Objectives

英語圏文化理解の基礎を構築するために、英国の複数の時代にわたる文化（文学、芸術、文化財等）の影響関係（再発見・再利用）について、その意義とその経緯を理解し、説明できる。また自らの観点で、講義外の他の事例について説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回【授業内容】ガイダンス(授業内容と英国についての基礎知識の解説)
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、英国の地理・歴史・文化等を確認しておく。また授業後は、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。 に
- 第2回【授業内容】英国に残るローマ文化：文化財の再利用と継承
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、ローマ帝国の概要と文化について確認しておく。また授業後には、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。 業後
- 第3回【授業内容】ヘンリー8世の宗教改革と後世文化での利用：芸術、宮廷食文化
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、15世紀イングランドの歴史と文化の概要を確認しておく。キーワードは「百年戦争」「薔薇戦争」「チューダー朝」「ヘンリー7世」「ヘンリー8世」。また授業後には、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。。 く。
- 第4回【授業内容】シェイクスピア：原作と上演、後世の改作、翻案、演出
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、16世紀イングランドの歴史と文化の概要を確認しておく。キーワードは、「エリザベス1世」「シェイクスピア」「シェイクスピア作品」。特にシェイクスピアの主要な作品については、概要でよいので調べておく。また授業後には、授業での配布資料を読み直す。 く。
- 第5回【授業内容】読書趣味の文化史：読書のための施設、出版と印刷文化
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、18世紀の読書文化等を確認しておく。キーワードは「貸本屋」「18世紀出版文化」「読者層」。また授業後には、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。 本
- 第6回【授業内容】近代スポーツの起源：文化の変容と継承
 【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、英国発祥のスポーツを確認しておく。また授業後には、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。 授業

第7回【授業内容】英国におけるジャポニスムー19世紀末の日本趣味の流行

【授業外学修】インターネットや図書館を利用して、19世紀末の英国の日本文化趣味を確認しておく。キーワードは「博覧会」「日本村」「ジャポニスム」また授業後には、授業での配布資料を読み直し、理解を定着させる。

第8回【授業内容】定期試験を実施する。試験の設問は前の週に提示する。試験の後で本授業の総括としての講義をする。

【授業外学修】期末試験出題範囲の内容について、テキスト、レジュメなどで確認しておくこと。

※各回の授業の最後で、受講生は「ミニッツペーパー」で授業の要旨や感想・疑問点等を記入し、それに対する解答を、教員は次回の授業の最初において、受講生と質疑をしながら明かしたり、話題を発展させて、受講者の興味を拡大させ、「期末試験」の準備となるようにする。

履修上の注意/Notes

- 1) 出席回数に注意する。毎回、出席確認を授業開始時に行い、欠席3回（ガイダンス回を除く）を超過した者は、単位を認めない。
- 2) 遅刻15分以上は欠席扱いとする。（交通機関の遅れ等の事情の場合はその限りではないので、授業後に申告する）
- 3) 教員の指示がない限り、授業中のスマートフォンや携帯電話等の機器の使用は認めない。
- 4) オフィスアワー：木2、金曜日以外の昼休み。左記時間外では電子メールでの問い合わせが可能である。

情報端末の活用

授業外の学修での予習・先行調査でPCを使用。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：英国文化の基本的な知識を十分に修得し、さらにその知見を独自の観点をふまえて説明できている。
A：英国文化の基本的な知識を修得し、さらにその知見を独自の観点をふまえて説明できている。
B：英国文化の基本的な知識を概ね修得し、さらにその知見を独自の観点をふまえて説明できている。
C：英国文化の基本的な知識について最低限の修得をしており、さらにその知見の概説ができている。
D：英国文化の基本的な知識が修得できておらず、さらにその知見についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

- ・「期末試験」：80%と「ミニッツ・ペーパー」：20%による。
- ・「期末試験」の設問は事前に公開され、教場で解答を記述する。試験時に資料は持ち込めない。
- ・「期末試験」の設問は、授業でとり上げたテーマをふまえて、自分の意見を加えるものになる。独自に関連研究書等を調べた内容についての言及があれば、その内容に応じて評価に加点がなされる。
- ・「ミニッツ・ペーパー」は、授業の概要を書くと同時に、質問やコメントを書くものである。配慮される理由のない欠席をすると、欠席回は評点が見つからない。

教科書/Textbook(s)

備考	教室で随時配布する資料を使用する。
----	-------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	はじめて学ぶイギリスの歴史と文化
著者名	指昭博
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2012

ISBN	978-4623063765
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB7779	ナンバリング	KB-CRC-133-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	館 深雪				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Cross-cultural Understanding: Japan and America

授業の概要/Course Overview

This course is designed to develop students' understanding of cultural differences between Japan and the U.S. while training critical thinking and communication skills through discussions. Students from different backgrounds are to collaboratively engage in critical analysis of cultural practices by reading assigned materials, exchanging opinions, and identifying key elements on each issue.

キーワード/Keyword(s)

cross-cultural understanding, Japan & the U.S., cultural contrast, cultural identity, polite fiction, discussion, communication skills

到達目標/Learning Objectives

This course aims to develop students' ability to (1) identify differences in cultural practices & ideals between Japan and the U.S.; (2) subjectively and critically analyze Japanese and American cultural practices; (3) present thought-through opinions based on prior reading and deliberation on given topics; (4) conduct discussions with various people in English.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

[Course Schedule]

1. Course introduction - Contrasting Japanese & American cultures; [Unit 1]"You and I Are Equals"

Homework: Read Chapter 9, Answer chapter exercise & discussion questions

2. [Unit 9]"Conversational Ballgames"

Homework: Read Chapter 6, Answer chapter exercise & discussion questions

3. [Unit 6]"Being Original"

Homework: Read Chapter 2, Answer chapter exercise & discussion questions

4. [Unit 2]"You and I Are Close Friends"

Homework: Read Chapter 3, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Chapter summary

5. [Unit 3]"You and I Are Relaxed"

Homework: Read Chapter 4, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Conduct an interview

6. [Unit 4]"You and I Are Independent"

Homework: Read Chapter 10, Answer chapter exercise & discussion questions

Final Project: Summarize & analyze interview results

7. [Unit 10]"Don't Apologize!"

Homework: Prepare for project presentation and discussion

8. Final Project: Presentation & Discussion

[Active Learning]

The following active learning features are implemented throughout the course:

- Discussion: share ideas, opinions, experiences related to given topics
- Think-Pair-Share: think about questions and share answers in pairs
- Round Robin: take turns expressing opinions in groups
- Peer Instruction: figure out answers to questions/issues among students
- Interview: interview classmates on related issues
- Role Play: simulate problem situations
- Reflective Journal: reflect on lesson content and write thoughts and self-analysis

[Diploma Policy]

(1) Panoramic understanding of the world (3) Problem-solving ability and communication skills

[Notes]

(1) This course is a modified version of "Discussion in English" offered in the past. Therefore, students who have already received credits in "Discussion in English" will not be permitted to take this course.

(2) Since this class will be conducted in English, students should have a basic command of the English in order to understand instructions, to collaborate with others, and to express their own thoughts. However, this course also welcomes students with a strong motivation and commitment to learn and communicate their opinions clearly, as these factors will be advantageous in a successful completion of this course.

履修上の注意/Notes

The course will be conducted in English. Students should have basic English communication skills and commitment to make efforts to become confident communicators. Since this course meets only for 8 periods, attendance, homework, & active participation in every class will be critical. Two-thirds attendance is required. Three tardies will count as 1 absence. No written final exam in Class 8.

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: Understand 90~100 % of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values fully and clearly

A: Understand 80% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values

B: Understand 70 % of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values with the help of others

C: Understand at least 60% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and able to explain their values with the help of others

D: Understand less than 60% of the issues and concepts related to cultural differences on given topics and not able to explain their values

成績の評価方法/Grading

Students are expected to attend each class, complete homework, and actively participate in all the class activities. The final grade will be based upon weekly participation in class activities & discussions (30%), homework & assessments (50%), and a final project (20%).

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	Polite Fictions in Collision - Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other
著者名	Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto
出版社	Kinseido
出版年	2004
ISBN	9784764737785
教材費	1250

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	異文化コミュニケーション論：グローバル・マインドとローカル・アフェクト
著者名	八島智子, 久保田真弓 著
出版社	松柏社
出版年	2012
ISBN	9784775401842
教材費	2400

参考書2

書名	異文化コミュニケーションワークブック
著者名	八代京子 [ほか著]
出版社	三修社
出版年	2001
ISBN	9784384018516
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--